

■シリーズ■

中学校武道

授業の充実に向けて

204

「今」の時代の武道授業を追い求めて

33

(なぜ柔道なのか？伝え方を工夫し子どもたちの共感を誘う授業を目指して)

学校法人長崎南山学園 教諭 近藤哲也

私は教師として17年、競技者時代も含めると35年間柔道に関わってきました。今回、このような機会をいただいたことに感謝申し上げます。本稿では、普段私が武道の授業を通して子どもたちへ柔道を紹介していく上で、重視している点などを記していきたいと思えます。また、一つお断りしておきたいことがあります。それは、授業の根幹は変わらないものの、年々重視しているポイントや子どもたちへ話す内容が変化してきていることです。それは私自身も子どもたちから学び、更新し続けている最中だからです。ここでの報告も「中間報告」として受け取っていただければ、ありがたいです。



長崎南山中学校

勤務校について

1

私は、2010年より長崎市の長崎南山中学校・高等学校（以下、本校）に勤務しています。周辺には平和公園や浦上天主堂などがあり、平和への祈りが込められた象徴的な場所に位置しています。本校はカトリックのミッションスクールで、中高一貫の男子校です。将来、司祭（神父）を目指す神学生も通う学校です。本校に通う生徒は6年ないし3年間の教

育課程を通して、国公立大学をはじめ私立難関大学への合格を目指しています。また、部活動では、中学において柔道部や剣道部、サッカー部、バレーボール部などは全国大会出場経験があり、高校においても多くの部が全国大会出場を果たしています。このような部活動の実績からも本校では、体格等に多少の差はあるものの、比較的運動技量の高めな生徒が運動部に所属している環境であると言えます。

本校では、柔道の授業を中学1・2年次に週1時間行っています。また、高校でも、1年次に週1時間実施しています。いずれもすべての生徒が柔道の授業を履修する形を取っています。

2 問われる武道の必要性

文部科学省より平成20（2008）年3月28日に改訂を告示された中学校保健体育学習指導要領では、中学校保健体育において武

道、あるいはダンスを含めたすべての領域を必修としました。平成24（2012）年の完全実施から約14年が経過しています。この改訂は当初より柔道を専門に指導する私にとって、端的に言えば国内の中学生が一齐に柔道に触れる機会となり、武道の魅力を周知するには絶好のチャンスであると捉えています。ただその半面、「なぜ武道（柔道）なのか」を明確に伝えることができなければ、柔道を学ぶ意義を知らずに「やらされている」という感覚で学ぶ生徒たちが増えるのではなにかと懸念しています。その背景には次のような経験があります。

本校に勤め始めて間もない頃、指示を待ちきれないほど柔道の授業を楽しみにしている生徒が受け身の授業で足の指を骨折してしまいました。保護者へ事情を説明した際に「うちの子は部活動（他競技の強豪部）でそちらの学校を選んだのに、柔道の授業で怪我をした。大事な大会前なのにどうしてくれるのか。柔道

なんかするのためにそちらの学校に預けているわけじゃない」と言われたことがあります。怪我をさせてしまったことへの謝罪に併せ、前述したような文科省の通達による必修であることを踏まえて説明しましたが、理解を得ることはできませんでした。

当時の私は武道の授業で「日本の伝統的文化を習得させる」という義務感が先行し、乏しい知識と情報量で指導に当たっていました。この経験から私は皆が、なるほど」と納得する柔道の教育理念を伝える必要があると感じました。以来、礼法などの伝統的な習慣や精神について日常生活の一場面などを例に、誰もが必要性を感じられるような授業づくりを目指しています。一番気をつけていることは、専門家が独り言のようにな一方的に知識だけを伝えるような偏った授業に陥らないことです。そのために「柔道は非日常的なものだが、あえて日常とつなげる親近感を持たせる時間」をテーマに授業を実践しています。例を挙げるとすれば始業時の掃除です。

掃除は日常生活では必要不可欠な行為ですので、校内や家庭で促された経験がある生徒はおそらく多いと思います。そこで伝えていることは「先生は昔、片付けなさい」と、注意を受けた経験があります。もしかするとみなさんもあるかもしれませんが、なぜ片づければならないのかを考えたことがありませんか。よく考えてみると、その場が散らかっていたら、そちらに気を取られてやるべきことに集中できない場合があります。柔道の授業では相手に力を思い切りぶつけるシーンがありますが、たとえ全力でも怪我をさせないよう気づかいすることを大切に行っています。だからそんな複雑なことを同時進行でやるためには、散らかっているゴミや違うことに気を取られず、集中できる環境を用意する必要があります。これは、教室内でも同じことが言えるのではないのでしょうか」ということです。このように伝えた上で、生徒の振り返りを一部紹介します。

【生徒の声】



授業の最初に掃除をして場を整える



黙想で気持ちを落ち着かせる

◎授業開始時に掃除や黙想をすることについて感想を教えてください。

・柔道は日本の伝統的なスポーツなのですることに異論はなかった。

・まずは道場を綺麗きれいにすることで心を落ち着かせ礼儀を重んじてできるから、これからも続けていきたいと思った。

・一般的な生活ではなかなかないことだと思うのでみんなできて楽しかった。

・自分たちが使わせてもらっているので掃除をすることは気持ちよく使えるからいいと思います。黙想も、ふざけた雰囲気です。授業を受けると怪我をするかもしれないから、落ち着くためにするからいいと思います。

・黙想は気持ちが落ち着くのでいいと思うけど、掃除までしてしまふと時間が少なくなるように感じます。

・掃除は使わせてもらっている側だから感謝の気持ちも込めてやっている。

・ほうき掃除は普通に楽しいし黙

想をすることでちよつと落ち着けていると思う。

3 全国中学生柔道(教科)指導者研修会

前述したような怪我につながった失敗を経て、自身の授業を成長させるため個人的に全国中学生柔道(教科)指導者研修会を受講しました。そこでは講道館や全日本柔道連盟、日本中体連柔道競技部などの名だたる講師の方々に加え全国各地で授業指導にあたる先生方の素晴らしい実践例を拝聴し、多くの収穫を得ることができました。今も自身の授業で糧となっているものがたくさんあります。その中でも特に取り入れているものが固め技の簡易的試合例です。これは実際に同研修会で紹介されたものではありませんが、受講時にいただいた「安全で楽しい柔道授業ガイド」(全日本柔道連盟指導者養成委員会発行)に付属しているDVDに収録されていたものであり、簡易的な固め技の攻防でお

互い仰向けあおむけの姿勢から襟を持って開始する展開例です。従来、固め技の簡易的試合ではお互い片膝をついた状態からスタートする形が主流でした。本校でも以前はその方法を適用していましたが、その方法では相手の頸部けいぶを抱えた状態で難むづかし倒し、捻り上げるなどの行為で怪我を心配される場面が多く起こりました。生徒からすれば、あくまでルールに則り柔道の力強いイメージで取り組むのですが、それが力加減できずに怪我につながってしまった場合、加・被害者どちらもショックを受け、以降の授業に対して後ろ向きになってしまふような事例もありました。この新たな展開例を適用することにより事故防止の観点から比較的安全に行うことができます。また、特別ルールを設定し、「取は抑え込み続けること」「受は逃れ方を駆使して時間内に逃れること」と、双方の立場で勝敗を設けることで生徒のモチベーション確保にも効果的でした。また、この授業内容は第16回、17回の全国中学生柔道指導者研修会で、私が講師の

日本武道館の単行本

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

柔道は、大澤慶己、長谷川博之、腹巻宏一
吉村和郎、山内直人の5氏を掲載！

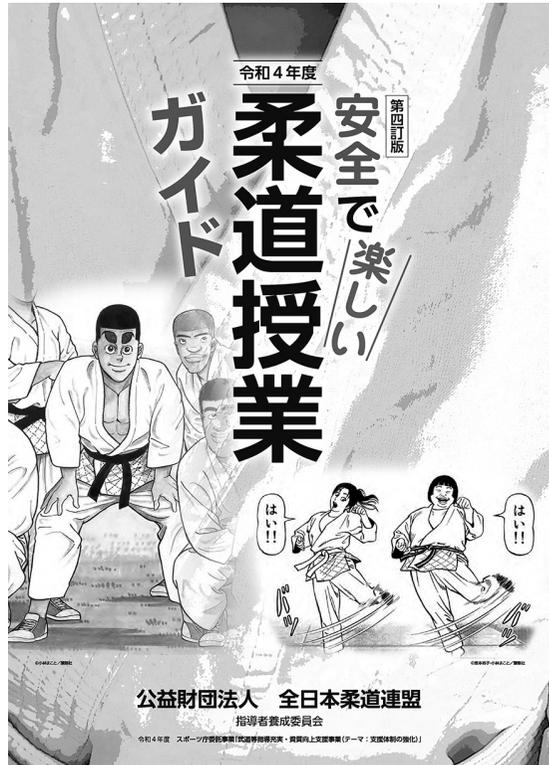


B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147



全国中学生柔道指導者研修会（中央が筆者）



全日本柔道連盟指導者養成委員会発行のガイド本

立場で受講生の先生方に指導案を作成し展開例として紹介しました。当日は、授業指導経験の有無を混合したグループピングをし、受講生同士で逃れ方を相談できる対話の時間も設けました。

【受講生の声】

◎袈かけ固かためめの逃れ方、簡易ルールを体験しての、質問、ご意見、感想等を教えてください。

・今まで背中合わせスタートでやっていたので新しいスタートルールでとても勉強になりました。

・教える側、教わる側の両方を体験できたので、内容ともに充実



ジグソー法での固め技（袈裟固め）の実践

した時間になった。

・昨年度、授業で取り入れてやってみましたが、初心者の子どもたちでも白熱しながらやることでできて楽しそうでした。

・先生方によって逃れ方もさまざまあり、とても勉強になりました。子どもたちにとってやりやすい、学びやすいものを選んで、今後の授業に取り組みたいと思います。

・受はただ受ける身だけではなくて、そこから逃げて返すという攻防につながるという話をぜひ生徒にして、固め技の中でも攻防する楽しさがあることを伝えたい。

・先生と生徒ではなく、生徒同士の関わりが多い授業で盛り上がると思えました。練習でがっちり袈裟固めをされると逃げづらいつつ、練習で逃げられる程度力を抜いて、逃れ方を学んでから実践につなげるのが良いと感じました。

【受講内容を実践】

昨年度、全国中学生柔道指導者研修会で固め技の講習に講師とし

てご一緒させていただいた坪根一

美先生の授業を参考に、本校でもジグソー法で固め技（袈裟固め）

の実践をしてみました。今回は写真ではなく、文字の情報によるものでした。上半身班と下半身班に分かれ、それぞれの得た情報を持ち寄って和気あいあいと意欲的に授業に取り組みの様子が印象的でした。答えを導き出した班とそうでない班がありました。協働の形が取れて充実した授業づくりができました。

4

今後も大事にしていききたい姿勢

私には柔道の授業づくり全体を通して、もう一つのテーマがあります。それは、講道館創始者の嘉納治五郎師範が大事にされていたという「問答」の姿勢です。

授業のまとめの時間に「今日の授業内容をまとめると？」そして、疑問点がありますか？と質問します。そこで出た問いに対して慣例的な情報で返答するので

はなく、生徒の多様な着眼点や発想に近い答え方をすることを心がけています。思いもよらない疑問点が出てくることを想定して準備することは、説明に根拠が重要になるため繰り返し原理を学び直すことにもなります。それに加えて今を生きる彼らの経験とリンクする表現を持ち合わせていないといけません。それを原動力として自身の授業内容も更新を続けていくことができている。

生徒は柔道の授業で対峙する相手の表情や体感する力量から状況を判断し、技を施すために相手の視点に立とうとします。教師はその生徒が体験する場面を想像し新しい授業づくりに励みます。それぞれの立場で相手を思っコミュニケーションの場をつくること、技術革新などで大きな変化に追われる現代の社会を、自分本位に陥らず多様な感性を認め合いながら生き抜くヒントを得る機会にもつながると信じています。そして、武道の授業はその意味合いも多分に担っていると思っています。